

1 - 1 北海道とその周辺の最近の地震活動 (1986年6月—11月)

Recent Seismic Activity in and around Hokkaido (June - November, 1986)

北海道大学 理学部
Faculty of Science, Hokkaido University

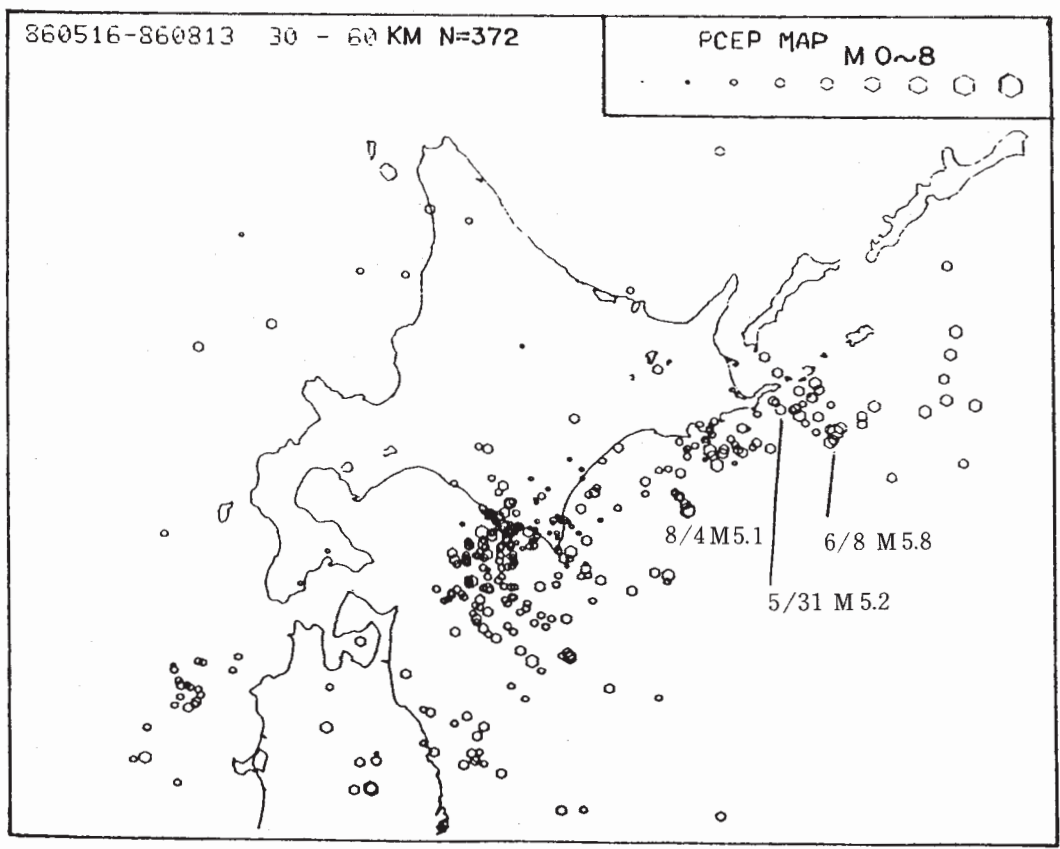
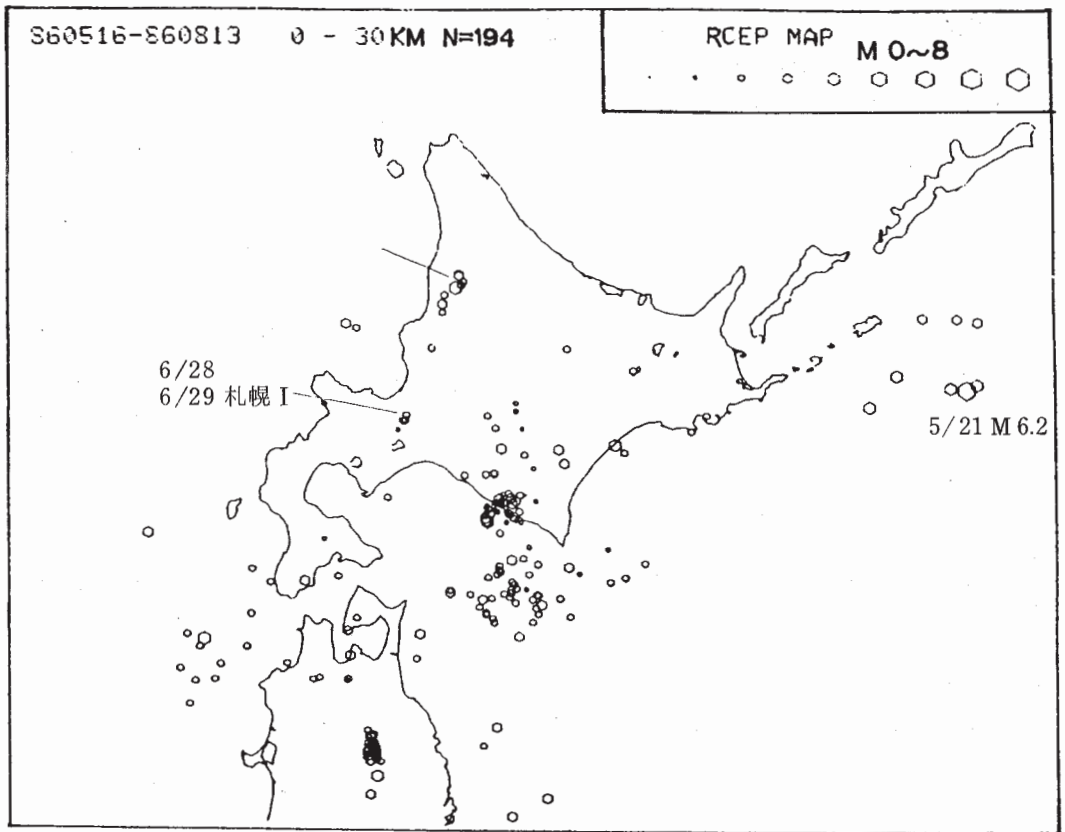
この期間の浅発地震の震央分布を第1図に示す。6月以降にはMが6を越す地震は発生していない。しかし、内陸部の地震活動には著しいものがあった。北海道中部から北部にかけての地震の震央分布とその発生時系列を第2図に示す。

- (1) 北海道北部幌延町・豊富町の群発地震。8月23日から31にかけて、現地でも有感地震(最大震度II)を10回以上含む群発地震活動があった。震源域が南と北の2ヶ所にわかれていたこと(第2図)、活動は断続的であったこと、がこの地震群の特徴である。M4.1の最大地震が活動の末期に発生した。
- (2) 北海道中央部沼田町の地震群。11月13日21時42分に東経141°49.6′、北緯43°49.0′、深さ8km、M5.5の地震が発生した。北海道の内陸では稀にみる大きな地震で震源が浅かったためもあって、震央付近では集合煙筒の倒壊、壁の亀裂などの被害が生じた。局所的には震度Vに達したと思われる。この地震には余震が続いた。最大余震(M=4.2)は本震の26分後に発生した。11月24日に2番目に大きい余震(M=4.0)が発生するまでは、余震活動は大森公式に従って順調に低下していた。しかし、その後25日、28日、12月3日にM3(現地でも有感)の地震が単発的に発生しているので、なお今後の活動の推移を監視する必要がある。

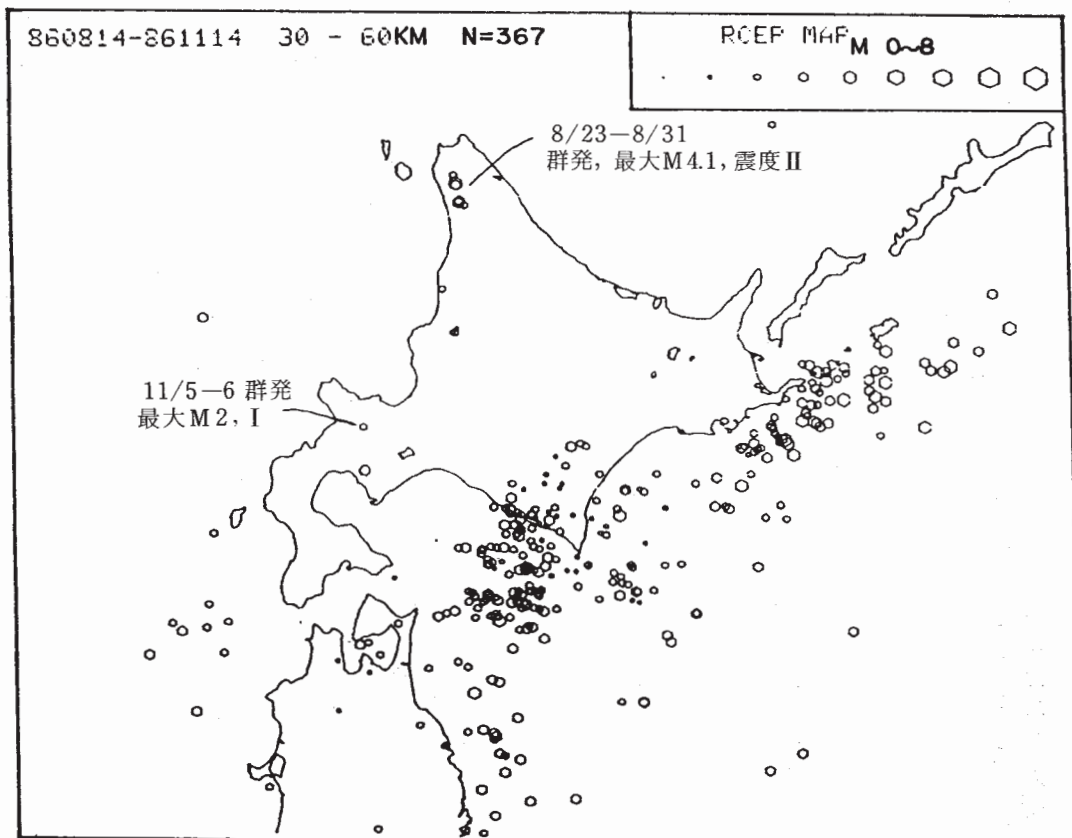
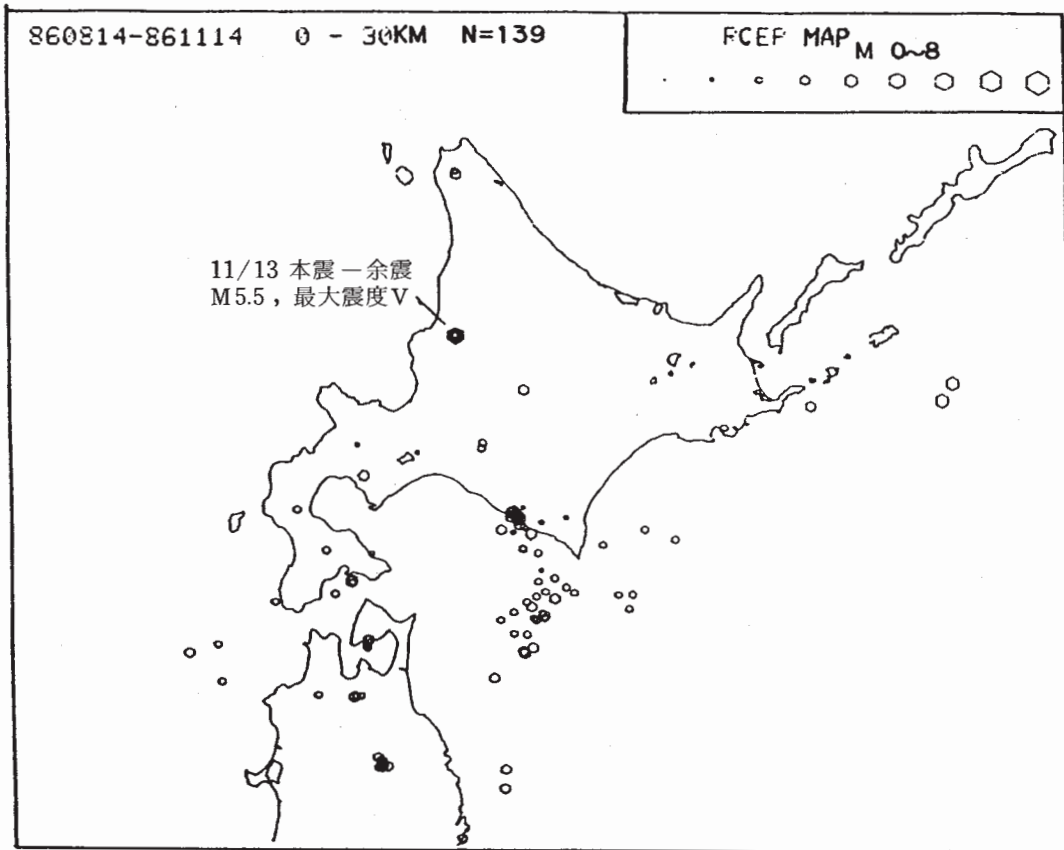
1986年5月中旬から沼田町の地震の北側ではじまった地震活動は8月には終息し、その後本震発生までの3ヵ月間はこの周辺では地震がなかった。この地震がなかった期間に、北部で(1)の群発地震が発生している(第2図)。

- (3) そのほかには、6月29日に札幌市東部、11月5日と6日に倶知安市街のごく狭い範囲で有感地震があった。

(本谷義信)

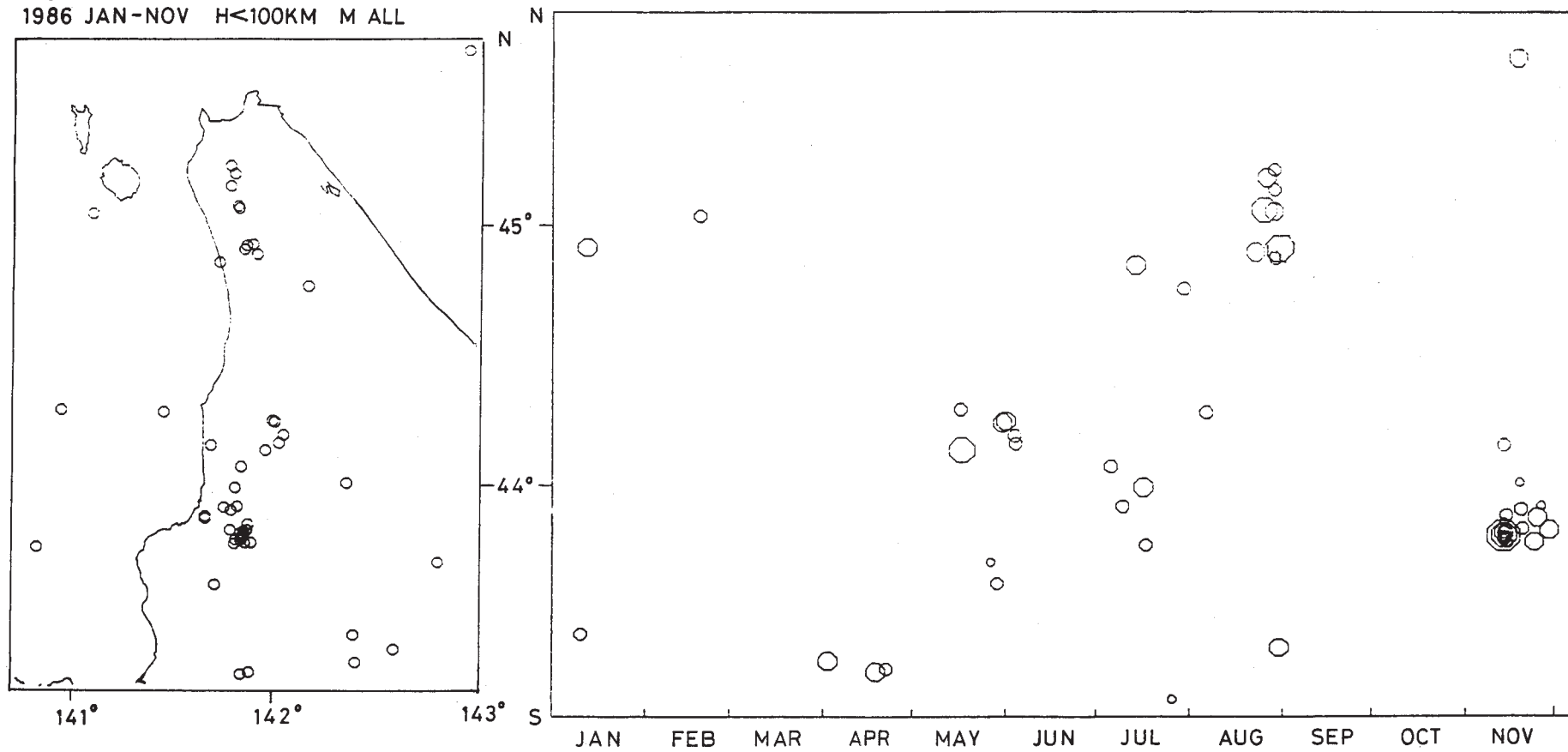


第1図 北海道とその周辺の浅発地震の震央分布
 Fig. 1 Epicenter distributions of shallow earthquakes in and around Hokkaido.



第1図 つづき
Fig. 1 (Continued)

RCEP EPICENTERS
1986 JAN-NOV H<100KM M ALL



第2図 北海道中部と北部の浅発地震の震央分布（右）と発生時系列

Fig. 2 Epicenter distribution of shallow earthquakes occurring in the central and the northern part of Hokkaido (right). Time-space distribution of the epicenters projected on a line along the N-S direction (left).